

# 新市町村の横顔

## ちよかわ 千代川村



長瀬 村長

### 1. 沿革

この村は結城郡のほぼ中央に位し、水戸線下館駅から常総鉄道で南下すること約50分、東は筑波郡大穂町、西は結城郡八千代村南は石下町、北は下妻市にそれぞれ隣接し、鬼怒川の清流が村のほぼ中央を流れ、その流域に昔から開けた地味肥沃な農村地帯である。昔この地方は下総国の豊田、大形の両荘に属し、豊田平四郎政基の領地となり、鎌倉時代には結城朝光、徳川時

代には伊奈備前守の支配となつたが、地方唯一の交通機関として鬼怒川の舟便が非常に発達し、宗道河岸は舟付場として大正2年の常総鉄道開通時まで繁盛をきわめたといわれる。明治維新後この地方は、若森県、牛久県、印旛県などに属し、明治8年に茨城県に編入されたのである昭和29年10月1日玉村の一部が宗道村へ合併し、さらに昭和30年1月1日蚕飼、大形、宗道の三村が合併してその名も「千代川村」が誕生し、面積19.40平方町、人口9,247人(男4,482、女4,765)世帯数1,613を有することになり(昭和33年2月毎月人口調査)、地域住民の豊和によつてよりよい農村を作り上げ、全住民の幸福と繁栄をめざしてたゆまぬ努力を続けている。

### 2. 産業

まず農業面を見ると、総農家戸数1,195、常住世帯員7,391人(男3,600、女3,791)、耕地面積1,154町(田505町、畑562町、樹園地87町)、山林43町、原野1町に達し(昭和33年2月冬期調査)、なかでも畑作物では大麦313町、小麦169町、なたね50町、大豆128町、さつまいも59町などが目立っている。村としても農業生産力の増強と農家収入の増加を図るため、有畜農家の創設と園芸作物の奨励を行うとともに、旧村単位に勸業技術員を駐在させて農産、畜産、果樹園芸の栽培指導に当たっていることは大きな特色といえる。この地方は昔から蔬菜の生産が多く、白菜55万メ、すいか42万メ、ねぎ2.1万メ、胡瓜2.5万メにのぼる年間出荷を行っているが、最近では花卉類の栽培が普及し、昨年はカーネーション3.2万本、チューリップ10万本を東京方面へ共同出荷して大変好評を博している由。

次に畜産面を見ると、乳牛9頭、役牛612頭、馬53頭、めん羊70頭、山羊142頭、豚428頭、兎460頭、にわとり8,061羽に達し(昭和33年2月冬期調査)、次第に養豚組

合の育成強化と相まつて農家の有畜化が進んできた。またおもな優良農機具の普及状況を見ると、電動機171台、石油発動機367台、動力脱穀機450台、足踏脱穀機369台、動力糶すり機265台、製粉機83台、精米機90台、精麦精56台、噴霧機221台、動力製糶機169台、足踏製糶機539台、動力カルチベーター303台、畜力水田中耕除草機87台、畜力砕土機46台、畑用播種機229台、畜力すき869台にのぼり(昭和32年2月冬期調査)、急速に農業の機械化が進んできている。次に商工業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店3、従業者15名、年間販売額3,242万円、常用労働者のいない個人商店89、従業者173名、6月中販売額619万円、工場数は24、従業者119名、年間製造出荷額3,104万円に過ぎず、他に見るべきものはない。

### 3. 教育文化

ここには小学校3、中学校3あつて小学児童は1,537名、中学生徒は607名で、学校施設の整備強化と教育内容の充実を期し、統合中学校の建設も4,000万円で今年度に着工することになっている由。また宗道には村立保育所があつて、職員6名、収容児66名にのぼりさらに拡張する予定といわれ、今後の発展が期待されるまた小学校には25mプールがあつてシーズンには元気な河童連でにぎわう由。次に消防団を見ると、合併とともにその設備を整備拡充に努め、17分団、手引動力ポンプ1台、小型動力ポンプ(可搬式)16台、貯水槽48(100石入)となり、防火体制はほとんど完成したと思われる。村では納税組合の育成強化に伴い、組合数も103となり、徴収成績も92%に達し、村財政の健全化に大きな役割を果している由。青年、婦人団体の活動も活発で、親学級、子学級を創設し、また各種研修会の開催、冠婚葬祭の簡素化などに努めている。

この名所旧蹟としては、新宗道の宗道神社にある大榿は幹周囲9.69米、樹高40米、樹令700年を数える巨大な老木で、昭和8年に天然記念物に指定された。また皆葉の富塚古墳は周囲56間、高さ34尺で矢の根石や埴輪などが出ている。

### 長瀬村長の抱負

1. 農業生産の合理化を図るため、道路、橋梁の完全補強を行うこと。
2. 消防施設の増強を図るため、機械器具の統合整備を促進すること。
3. 納税組合を育成強化して、健全財政の確立を期すること。
4. 教育の振興を図るため、統合中学校を建設すること。
5. 厚生施設の振興を図ること。

### 4. 財政

昭和33年度歳入歳出予算

(単位円)

歳入	村税	地方交付税	企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	村債	合計			
入	14,363,000	11,408,000	2,000	414,000	8,209,000	432,000	10,000	—	2,600,000	162,000	7,600,000	45,200,000			
歳出	議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	855,000	9,740,000	1,184,000	1,369,000	25,231,000	1,434,000	295,000	2,601,000	93,000	110,000	343,000	327,000	1,346,000	272,000	45,200,000